

久保田克博 研究員



2006年、兵庫県丹波市に分布する白亜紀前期（約1億1千万年前）の地層である篠山層群大山下層から恐竜化石が発見されました。現在ではタンバティタニス・アミキティアエという学名が付与されています。

それに伴い、数多くの恐竜類の歯化石も発見されています。一生のうち一度だけ歯が生え替わるわれわれ哺乳類とは違い、恐竜類は何度でも生え替わります。また、歯は動物の体の中で最も固い部分です。これらことから、歯化石は恐竜化石産地では最も多く見つかる化石のひとつとされています。今回はその中でも獣脚類（主

に肉食恐竜で構成されるグループ）の歯化石を紹介します。

篠山層群産の獣脚類の歯化石の多くはナイフ状をしています。その中にU字形の断面をもつ歯があります。さらには他の獣脚類の歯とは異なり、鋸歯と呼ばれる歯の前後にある細かいギザギザがなく、歯の内側（舌側）には低く明瞭な稜があります。これはティラノサウルス上科の中でも、かつて「アウプリソドン類」と呼ばれたグループの前上顎骨歯（上アゴの前歯）の特徴です。

また、歯冠と歯根の境界がくびれていて、歯冠の外形が穂のような形をした歯が1点だけ発見され

ティラノサウルス上科の歯



ティリジノサウルス類の歯



ています。この歯は他の多くの獣脚類の歯よりも鋸歯が大きく、あまり後方にカーブしていません。これはティリジノサウルス類という肉食から植物食へと食性を変化させたグループの歯とされています。ただ、それ以外の獣脚類の歯は詳細な分類が難しいとされてきました。

最近、その他の獣脚類の歯化石に関する予察的な研究により、そ

これらの歯の中にはティラノサウルス上科やドロマエオサウルス科の側歯（おおむね恐竜の鼻の穴よりも後方にある歯）が含まれる可能性が指摘されました。また研究の上ですが、それ以外にもいくつかの種類の獣脚類の歯が含まれる可能性もあり、今後研究が進むことで、篠山層群が堆積した白亜紀前期の獣脚類の種多様性が明らかになることが期待されます。

ひとはく 研究員 だより

恐竜の歯

丹波に眠る「多様性」知る鍵